

## 令和2年度 第2回農業大学校外部評価会議 議事録

I 開催日 : 令和3年2月24日(水) 14:00~15:30

II 開催場所 : 大分県立農業大学校 会議室

### III 出席者

#### 外部評価委員

教育関係者	大分県高等学校教育研究会農業部会 会長 (久住高原農業高等学校長)	佐藤 智之 氏
生産者	大分県指導農業士会 会長	三又 勝弘 氏
〃	大分県農業法人協会 会長	増田 徳義 氏
〃	地元女性農業者	古庄 京子 氏
農業団体	大分県農業協同組合常務理事(農業振興担当)	森本 亨 氏
行政	豊後大野市 農業振興課長	志賀 正 氏
〃	中部振興局農山漁村振興部長	石井 修三 氏
農業大学校	校長、副校長、次長兼総務学生課長、農学部長兼教務課長 研修部長	

### IV 次第

#### 1 開会 (進行: 次長)

開会に当たり、新たに指導農業士会会長の三又勝弘氏を委員に委嘱したので、ご紹介します。

#### 2 校長あいさつ

委員の出席に対する謝辞

三又指導農業士会会長を新規に委員として委嘱

本年度は、コロナ禍により休校や海外研修を中止するなどの影響があった。また、入学者の確保や学生の成績向上、進路確保などに取り組んだが、思うような成果が挙がっていない部分もあるので、委員の方からの助言を頂きたい。

#### 3 委員長あいさつ

高校でも久住高原農業高校と玖珠美山高校で外部評価を実施している。高校でも定員の確保は困難な状況が続いているが、R3年度の一次入試で、玖珠美山高校、大分東高校、三重総合高校で定員が確保できた。国も食料自給率の向上に向けての舵を切ってきたことなどから、農業に興味のある中学生が増えている。

本評価委員会は、委員の方々を通じてより多くの方々に農業大学校を知ってもらい、その良さを伝えてもらう事も目的であると思う。農大の取り組みを地域に広め、農大生の確保に尽力いただきたい。

#### 4 配付資料の確認(次長兼総務学生課長)

#### 5 議事 (議長: 佐藤委員長)

##### (1)「令和2年度重点目標の取り組み状況尾世に評価について」

##### 運営方針1

「活気あふれる学園づくり」と数値目標の「基礎学力を備えた入学生60名の確保」について校長から説明し、自己評価3とした。

森本委員:「くじゅうアグリ創生塾」との連携回数が1回なのは何故か

校長: 例年は農大から「くじゅうアグリ創生塾」に職員が出向いて行って研修をしていたが、コロナ禍の影響で実施回数が1回となった。

森本委員:「くじゅうアグリ創生塾」にあつまると生徒は農業系を進学する生徒なのか

委員長(くじゅうアグリ創生塾校長兼務): 農業系の単独高校は久住高原農業高校1校のみとなり、他の農業系高校は総合高校に1~2クラスのみとなった。農業系学科全体があつまって学習する場として「くじゅうアグリ創生塾」が設置されている。

森本委員：「くじゅうアグリ創生塾」の活躍に期待したい。

石井委員：FBの情報発信は効果があると思うが、学生が日常で行っている情報発信は把握しているのか。

藤田部長：学生のプライベートでの情報発信は把握していない。SNSの使い方等について学生の資質向上を図っていく。

委員長：評価は 3 として良いか

各委員：同意

## 運営方針2

「質の高い教育の提供」と数値目標の「日本農業技術検定3級相当の専門知識習得者80%以上」

「在学中に5個以上の資格取得者80%以上」について、校長から説明し、自己評価3とした。

三又委員：様々な資格を取得しても、資格取得と別の職に就く人が多く、資格の必要性が理解されていない。それよりも、スマート農業などを実践的に農大で学べるようにすると、農大でそのノウハウを学ぼうとする学生が増えるのでは。今後10～15年後の農業に対応できるように、スマート農業の実践ができるようにしてもらおうと良い。農業大学校での実践であれば、信用があるので、本当に農業をする人が入学してくるのではないかと。

校長：2022年からスマート農業をカリキュラム化するよう国の方針がある。現状ではコース毎にICTを活用した実習や、研修部にドローンを導入して操作技術の習得ができるよう準備している。

予算が伴うが、機材の導入を検討していく

他にもグローバルG.A.Pの認証取得を勧めており、令和元年度にカンショ、令和2年度に果研4号で取得し、令和3年度は米で取得予定

花、畜産でもJGAP取得を行い、全校でGAPが学べるように計画している

委員長：高校現場では、スマート農業については文科省からの指示はないが、県下全ての農業系高校（8校）でJGAP認証の取得ができた。これは、三重県に次いで、全国2番目である。

運営方針2の評価については、3として良いか

各委員：同意

## 運営方針3

「農業の担い手の確保」と数値目標の「全学生・研修生の進路内定率100%」「就農率80%以上」について、校長から説明し、自己評価2とした。

古庄委員：進路内定者のうちその他はどこに内定しているのか

校長：JA2名、農機メーカー1名、進学1名、関連産業2名  
農業関連への内定率は90.6%です。

森本委員：集落営農法人への就職について教えてほしい

吉田部長：研修部は構成員の年齢の幅が広いが、8～9割が就農している。

本年度は、(農)いわどへの内定者が1名、(農)芦刈農産への雇用就農を検討している研修生がいる。

藤田部長：農学部では(農)中園営農組合へ1名内定している。

石井委員：自営者は全て親元就農か

藤田部長：農学部は全て親元就農

吉田部長：研修部は、親の土地（現在は使用していない）で農業を行う

三又委員：法人就職も良いが、自営就農を勧めるべき

校長：本校の入学者の約70%が非農家であり、農業法人に就職後自営に結びつけるようにしたい

委員長：農業法人に就職後、自営している人はいるのか

藤田部長：農業法人へ就農後、のれん分けを考えている法人もある。卒業生でも一旦集落営農法人に

就職し、法人経営を経験してから実家が設立した農業法人に経営者としてもどるケースもあり、農業法人への雇用就農を経験してから自営就農できる仕組みを作っていきたい。

委員長：運営方針3の評価は2として良いか

各委員：同意

(2) 令和3年度魅力ある農大の実現に向けた取り組み について

校長：取り組み(案)について説明

農学部の入学者が3年続けて伸び悩んでいる。高校との連携を進めながら学生募集をしているが、高校生が入学したくなるような学校づくりをしていくための、ご助言をいただきたい

森本委員：高校の卒業生は減少しているのか

委員長：今後3年間は、中学3年生が増えるので高校入学者数の増加が見込めるが、その後はクラス単位で卒業生が減少していく。

増田委員：景気が悪くなると求人が減るので、入学者が増えるのでは

委員長：景気後退により、農産物の輸入量が減少しており農業が注目されるようになってきた  
久住高原農業高校でも、アフリカンサファリと連携して餌の確保を行っている。

三又委員：コロナ禍により失業者が増加しているが、失業者が農業を選択しない。地道な活動が必要である。

次世代人材育成事業による給付金等を活用して、ファーマーズスクール(以下FS)で研修している研修生が農大に入学できないか

森本委員：10年前は、過年度卒業生が学生の2~3割程度いて、みんな就農していた。

校長：就農相談会でも学生募集をしているが、ここ2年間はほとんど新卒者である。

過年度卒業生を募集する具体的な方法がわからない。

増田委員：FSは作物に特化して独立自営をさせる事を目的にしているので定着率が高い。農大は学校なので、基礎的なことを学ぶ場

三又委員：農大の必要性は十分理解している。農大を存続させるためには、学生確保が必要

委員長：そのためには、農大のアピールを皆さんでやってもらう事が必要

校長：近年は、非農家の学生が多い。農家のご子息が入学してくると自営者が確保できる

増田委員：親の農業が儲かっているならば、子供は農業の道に進む

三又委員：最終的には、金が儲かるようなシステムを作ることである

委員長：儲かる農業を見せるため、久住高原農業高校では儲けている農家の話を聞かせている

三又委員：県のバックアップ等を受けながら農業形態を法人型にして、休みがとれる体制作りをする。

石井委員：「臼杵アグリ起業学校」には入学希望者が多い。これは、野津のピーマンが儲かっているから

森本委員：「臼杵アグリ起業学校」から農大へ学生を誘導できないか

増田委員：農業自営する場合、経営者としての責任が重くなる。農業は好きだが経営能力のない人もいますので、経営能力のある人は農業自営するし、経営能力のない人は雇用就農する。

三又委員：「農業を自営する」仕組みを作っていくことが必要。

(3) その他

①「令和2年度の活動内容」「令和3年度行事計画」「令和2年度 アンケート調査結果」を一括副校長から説明

委員長：2年生のアンケート結果で、「喫煙、飲酒のマナーはきちんと守られ、いじめや暴力はない」の設問に対して、評価が低くなっているが・・・

校長：校内は禁煙にしている。

寮内で、喫煙している事があるので、事実を確認したときは厳しく対応している。

委員長：暴力やいじめはないのか

校長：それはない

②卒業式について

例年外部評価委員の方には、卒業式に来賓としてご案内をしていたが、本年度の卒業式にはコロナ対応として、来賓の案内は行なわない旨、次長から説明

委員長：議事を終了します。

次長：第2回外部評価委員会を終了します

閉会后、校長から委員の任意は本年度末までであるが、古庄委員以外は役職指定のため引き続き委員の依頼をした。古庄委員についても来年度の委員を依頼し、承諾を得た。